

令和7年度 陸修偕行社慰霊祭の斎行



令和7年4月17日、令和7年度陸修偕行社慰霊祭が靖國神社において斎行されました。国家防衛のために尊い一命を捧げた陸・海軍将兵、更には戦争において国のために亡くなられた学徒、女子挺身隊員などの英霊を慰霊・顕彰し安らけく^{かみしず}神鎮まらんことを祈念するとともに、感謝の念を捧げることができました。

陸修偕行社慰霊祭は、市ヶ谷台慰霊祭及び月例参拝を統一し、日清戦争終結の記念日に斎行することとなって4回目、陸修偕行社が発足してから2回目の慰霊祭でした。陸幕代表者、関係協力団体代表者、地方偕行会会長などをお迎えし、ご遺族、陸士・陸幼各期代表者、法人・個人賛助会員、家族会員、元自会員等約140名が参加しました。

慰霊祭に先立ち、市ヶ谷駐屯地慰霊碑地区において、陸修偕行社理事長 火箱芳文、ご遺族 中川 聖^{さとし}様他、市ヶ谷台慰霊会会員が、陸軍大将 阿南惟幾^{これちか}茶毘の碑、陸軍元帥 杉山元^{げん}及び陸軍大将 吉本貞一^{ていいち}自決の碑、全陸軍航空部隊の碑、陸軍少佐 晴氣誠^{はる け}慰霊碑及び自衛隊殉職隊員の碑に対して、万感の思いを込め献花・拝礼を実施しました。

その後、慰霊祭参列者は靖國神社参集殿に集合し、大塚海夫宮司のご挨拶をいただいて拝殿に参進、開式の辞、元海自東京音楽隊 堀田和夫様及びご息女 町ともみ様のトランペット演奏による国歌斉唱の後、修祓、献饌、祝詞奏上、火箱理事長による祭文奏上、続いてトランペット献奏で拝殿での儀式を終了しました。次いで本殿に昇り、代表者による玉串^{ほうてん}奉奠に合わせて参列者が拝礼、最後にトランペット演奏「国の鎮め」により黙祷、英霊の御霊に哀悼の誠を捧げました。

拝殿及び本殿における慰霊祭斎行後、靖国会館の直会では、国歌斉唱、火箱理事長・ご遺族代表 中川聖様・来賓代表 大塚海夫宮司のご挨拶、来賓紹介、祭電披露、森勉会長の献杯により会食・懇談、最後に「同期の桜」を唱和し、和氣藹々^{あいあい}の名残尽きない会となりました。